

# 一般的信頼と高等教育の重層的関係

～2005年SSM調査データをもちいた分析から～

学習院大学 数土 直紀

## 1 目的

本報告の目的は、社会関係資本のコアを形成すると考えられている一般的信頼とその社会の教育水準との間にどのような関係があるかを明らかにすることである。社会関係資本、そして社会関係資本を構成する一般的信頼の重要性を明らかにしたのはR.パットナムの『孤独なボウリング』であるが、そこではその社会の教育水準と社会関係資本（そして、一般的信頼）との間に強い相関関係があることが示されている。しかし、日本においても社会関係資本を計測する試みがおこなわれているが、日本においてはパットナムがアメリカ社会で示したほどの強い相関は社会関係資本（そして、一般的信頼）と教育水準との間に存在していない。本報告では、日本とアメリカにおいて社会関係資本（そして、一般的信頼）と教育水準との間にこのような違いが現れる理由を、一般的信頼を構成する信頼のタイプの違いによって説明できることを明らかにする。

## 2 方法

本報告で使用されるデータは、2005年に実施された「社会階層と社会移動に関する全国調査」（SSM調査）データである。本報告では、一般的信頼を形成する二つのタイプの信頼を構成概念（潜在変数）とし、一般的信頼を最終的な従属変数とした構造方程式モデルを、2005年SSM調査データにあてはめ、分析をおこなった。

## 3 結果

構造方程式モデルをもちいて分析をおこなった結果、一般的信頼は二つのタイプの信頼によって構成されていると考えることの妥当性が明らかにされた。一つは、これまでおこなわれてきたやり方を大切にしようとする権威主義的な性格をもったタイプⅠの信頼である。もう一つは、機会の平等や競争の公正さに重きをおく平等感覚・公正感覚にもとづくタイプⅡの信頼である。高等教育は、権威主義的な性格をもつタイプⅠの信頼に対してはマイナスに影響するが、平等感覚・公正感覚にもとづくタイプⅡの信頼に対してはプラスに影響する。つまり、高等教育の一般的信頼に与える影響は、それぞれのタイプの信頼を経由して、マイナスにもプラスにもなりうる。

## 4 結論

分析の結果から、一般的信頼が主にタイプⅡの信頼によって構成されている社会では教育水準と社会関係資本（そして、一般的信頼）との関係は強い正の相関を示すが、主にタイプⅠの信頼によって構成されている社会ではその関係はむしろ負の相関になる可能性があることが判明した。そしてこのことは、アメリカと日本で一般的信頼を構成する信頼のタイプが異なっているために、高等教育と社会関係資本（そして、一般的信頼）が異なったものとして現出している可能性を示唆している。

【謝辞】SSMデータは2005年SSM調査研究会の許可を得て使用しています。また本研究は科学研究費補助金（No.24530599）による成果の一部です。

## 文献

Putnam, R.D. 2001. *Bowling Alone*. Simon & Schuster. (柴内康文訳. 2006. *孤独なボウリング: 米国コミュニティの崩壊と再生*. 柏書房.)